

令和3年度 高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第1回） 概要メモ

日時：令和3年8月24日（火）10:00～12:00

場所：オーテピア4階研修室（高知市追手筋2丁目1番1号）

出席者：＜委員＞

宮田委員長、都築委員、天野委員、川鍋委員、西田委員、谷委員

＜事務局＞

文化生活スポーツ部 岡村部長、文化財課 中内課長（オブザーバー）

文化振興課 依光課長、松本補佐、森田チーフ、柳井

文化財団総務部 戸田部長

＜議題＞

（1）高知県文化芸術振興ビジョン行動計画について

（2）令和3年度事業の改定案について

＜意見交換＞

| | |
|-------|---|
| 宮田委員長 | <p>今年・去年とコロナがあった関係で数値目標の達成は難しい。あまり多く来られてもそれはそれで困る。</p> <p>一昨年から昨年にかけて県民文化ホールが使えず、来年はかるぼーとが使えないので人を集めた催し等ができず、今年度の数値目標という点では難しいかなと思うが、これはやむを得ない。</p> <p>さまざまな取り組みをし、ウェブで上手くいったケースもある。この苦しい中でどのようにやっていくのか、改善点がどこにあるのかを皆さんの意見を聞きたい。</p> |
| 都築委員 | <p>現在のコロナの状況は今年1年で収まるようなものではなく、このままだらだらと続いていくように思う。</p> <p>そんな中で、今までなら中央から有名なアーティストなどを呼んで展覧会やいろいろな催しを行ってきたが、それがだんだん難しくなる。</p> <p>高知県の中でやらなければならず、数字で見ればそれほど大きな数字が稼げるわけではない。</p> <p>西から東まで非常に距離があり、全体でまとまって何かを興すというのは難しいので、それぞれの地域から起こってきたものを応援してそれぞれの小さな文化活動みたいなものを地道に育てていくいい機会である。そういうものがあちこちにあり、成長していった下地ができるようなことにむしろ積極的に取り組んでいく好機であると考え方を変える。</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>数値で見るとどうしても効果が出ているようには見えないかもしれないが、そういう草の根運動のようなことを心がけていった方が将来的に豊かなものを作っていけるのではないかと思う。</p> |
| 宮田委員長 | <p>今ずっと関わっていることだが、越知町の仁淀川流域で新しいプロジェクトチーム（仁淀ブルー体験博 2021）を立ち上げていろいろなイベントやっいてこうとしている。</p> <p>都築委員が言ったように県全体で何かをするのは難しい。スポットを当てたところを活性化し、その灯をあちこちに広げていくような形で県全体が活性化し文化が発展していくような、そういう視点が大事では無いかと思う。</p> <p>安藤桃子さんのように移住してそういった活動をされる方も多い。そういう才能を持った方が高知に来られているので、お願いしているいろいろなやっいていくことも大事ではないかと特に感じている。</p> <p>この観光にとって厳しい状況が続いている中で、地方と結びつけるのもこの委員会のひとつの理想だが、天野委員はどう考えるか。</p> |
| 天野委員 | <p>本来の高知の良さは人の温かみであったり、接するとよく分かる。食であったり体験であったり、虜になることが来てみるとよく分かるのだが、残念ながら今はそういった人流が厳しくなっている。高知新聞にも掲載させてもらったが、このコロナ禍は種まきの時だと考えている。都築委員の言われたように、この機会を好機だととらえる。これが無かったら良さが分かってもらえなかったところはたくさんある。</p> <p>例えば修学旅行生。今までは東京や大阪など大都市を選び高知は選んでもらえなかったが、このコロナ禍で高知は安全（今は増えてきたが）だということで高知を選ぶところが増えた。2021年は19年度から比べて2.5倍になった。知らなかった人たちが高知を知ることになった。これがコロナ禍が収まり普通に戻ったときにまた高知を選んでもらえるか、この種まきの時にかかっている。</p> <p>高知には本当にいろいろな地域にいろいろな文化芸術があつて、それを知らしめる方法として企業版ふるさと納税や個人版ふるさと納税など、この辺りは皆さん今なかなか使うことができず、もちろん実入りも減っているが、何か貢献したいと考えている。そういうことであればこの場にいてできる。こういうものがあると上手く発信する。世界に向けてそれだけの観光素材であったり文化を磨き上げ発信してい</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>ないといけない。それを今のうちに支援してやっていくことが高知ならできると考えている。自分がいた京都では企業版ふるさと納税や個人版ふるさと納税のその素材の磨き上げ、もしくはそれをしてもらうための営業が非常に活発でそれによって安定しているということがあったので、同じように歴史が深い、高知ならではのものがあるという中でそういうこともできるのではないかと考える。</p> |
| 川鍋委員 | <p>自分のまちかどギャラリーもそうだが、地域で長くいろいろな文化活動をしている人たちがいるが、例えば地域のお祭りなんかは2年連続で中止になっている。そういったことに関わっている人たちはやはりお年寄りが多く、これ以上イベントや行事が止まってしまうと継承が難しくなってくる。県の方でもインターネットなどを活用して発信していくことはやっていると思うが、なかなか地域のお年寄りにそういったことは難しく、自分たちでの発信は難しい。その辺でなにかいい方法はないのかとまっているところ。</p> |
| 西田委員 | <p>コロナ禍で意識も変わってきている。この中でいろいろな取り組みを、というのは難しいけれど、足元を見直していくことも大事。自分は写真が趣味だけでも、写真を撮りに催しの度にいろいろ回っているといいものがたくさんある。今は春野町再発見を行っているが、そこに田舎寿司を作る、という体験があった。ああいった地道な活動が必要かなと思う。</p> <p>このコロナ禍を見据えて人の意識が変わった後というふうなことをやっていくのか、手探りで模索中だがこの地道な努力を続けていくことが必要である。</p> |
| 谷委員 | <p>高知城歴史博物館の現在やっている仁淀川流域の企画展、取り組みや残してあるもの、子供たちの調べたことの展示など、またいろいろな人々のたくさんの写真を半日かけて見た。残念だったのは人が少なかったこと。せつかく人が来る価値のある企画だったのに。高知にはこういった財産がたくさんある。これをしっかり宣伝してみんなのものにしていきたい。</p> <p>もうひとつ、総文祭のレガシーを継承していきたいということで高知の高校生が対面交流できなかったリベンジを果たそうとしている。全国の新聞部に声をかけ、来年のよさこい祭りに全員で参加するという企画を進めている。こういう高校生が主体となって進めていく企画な</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>どを支援していくような仕組みができるといいと考える。</p> |
| 宮田委員長 | <p>この2年間できなかったことの意味を考え、できた頃と同じことをするのではなく今のうちに次の形でつなげていく準備をしてそれぞれの分野でため込んでおくことが大切になってくる。</p> <p>特に、人の育成というのが必要。地域の祭りなど、どこも高齢化しているのです、どのように繋いでいくかというのが難しいところ。</p> <p>県史の話になるが、今書き手がいない。かつては高校の先生方が活躍した。しかし、今は先生方はそれどころではなく、書き手を頼めない。そのように次代を継承していく人が減った。また、そういった人は年配の人が多く、次がないと途絶えてしまう。そこを何とかするというのも我々の仕事ではないかと思う。</p> |
| 天野委員 | <p>よさこいについて。今オーセンティックよさこいというものをやっている。よさこいはどうしても限定的な期間のみでそれ以外の時に来てもやってないため、触れる機会が少ない。そのため、商店街が協力して、やってきた修学旅行生によさこいを実際に踊って教える活動をしている。最初ははにかみながらやっていた修学旅行生たちも最後にはすごく楽しく踊って、修学旅行の催しの中で一番楽しかったという声を聞く</p> <p>学生の力は大きくて、ここで高知を好きになってもらえたらまた来てもらえる可能性もすごく高まる。先ほど言ったように、修学旅行というのが一番学生たちに高知の良さを伝えることができる機会であり、多分今しかない好機。このオーセンティックよさこいというものをもっと広めて、特に若い人たちに広めていきたい。</p> <p>県外の人にもこ淵は知っている。なぜかというとSNSで広まっているから。このSNSの力は本当に大きく、ここから若い人たちに浸透していくのはすごいと思う。こういう若い人の力をもっと使っていくことができたらと思う。</p> |
| 宮田委員長 | <p>よさこいというのはやっていくうちにはまるもので、やはり踊ってみてこそ良さが分かる。それから、今若い芸術家たちの活動はどのようになっているか。</p> |
| 都築委員 | <p>現在、香美市立美術館で若手の作家アートを行っていて、個々人がそれぞれでSNSで発信を行っている。そのためこのコロナ禍にも関わらずこの作家さんの実物を見たい！と県外からぽつぽつお客さんが来</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>ている。私たちの知らないところでSNS上で有名になっていたりする。このように今の若い人たちは日常的にSNSを利用しその力を十分に認識している。一方で、美術館などは体制的に、特に役場に直結しているようなところはそういうネットを使ったことはやりにくい、ということがある。展覧会によっては若い作家たちが自主的に発信を行っているのでとても良いと思う。奈半利の方でも企画展をやったが、主催者が世代交代してるのを見かける。実際に関わっている人たちは継承問題をしっかり認識して対策してきている。今回も、奈半利に参加して次はまた別の地域で、という風に飛び火して高知全土に広がっていく。</p> |
| 宮田委員長 | <p>そういう形で小さくてもいいのであちこちに灯が付いていけばまた違った形が出てくると思う。</p> <p>(事務局に向けて) へんろ道は、他の3県との連携はやっている？</p> |
| 岡村部長 | <p>四国遍路の世界遺産登録に向けてやっているが、中心は香川県。正直に言って高知県の取り組みが4県中最も遅れている。今現在16の札所が史跡指定を受けているが、高知県の中では1つ。基本的には88の札所の中で半数くらいは少なくとも史跡指定にして、一定の巡礼型のへんろとしてのストーリーを持って世界遺産に向けた登録をしていきたいと考えているが、将来に向けてなかなかハードルが高い。いずれにしても、4県連携で取り組んでいる。</p> <p>補足すると、これまでこの取り組みは総務部の政策企画課が所管していたが、本年4月より移管され文化体育スポーツ部の文化振興課が担当させてもらっている。引き続き教育委員会文化財課と連携して取り組みを進めていきたいと考えている。</p> |
| 宮田委員長 | <p>世界遺産もいいけれど、それより最近高知城をととても褒められた。こんなに素晴らしい城はそんなにないだろうと。一方で城内の展示は朽ちるためにしているようなひどい展示だと言われた。見に来た方に見せるような展示ではない。せつかく高知城の博物館ができたのだから後世に残せるようしっかりとした展示をするべきだと言われた。城としてはいいけれども、その管理がなっていないと言われたが、県の方でもそこはなにか考えているのか。</p> |
| 中内課長 | <p>ありがたいご意見ですので参考にしていきたい。</p> <p>高知城歴史博物館ができ、その中に高知城コーナーを設けている。以</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>前は高知城内に展示コーナーを設けていたが、きちんとした博物館とは違いきれいな保存が難しいので博物館に移管した。そういった中で、どうやって魅力を伝えていくかということでこれまでも工夫してきた。パネル展示が中心になっているのでなかなか伝わりづらい、ということがあるので、観光ガイドの皆様にご協力いただいて高知の魅力、城の魅力を加えて話していただくことで伝えていこうということもやっている。</p> |
| 宮田委員長 | <p>あまり民間（指定管理者）に任せっきりになるのもよくない。民間に力を入れることはかまわないけれど、任せっきりだと問題も起きてくると思うので、高知城に限ったことではないが、いろいろと考えていただきたい。</p> |
| 川鍋委員 | <p>須崎でも文化財保護審議委員をやっているが、今年度から地域学芸員養成講座を受講している。専門的な文化財の扱いや古文書など、大変なので基本的な知識を広めてもらえるのはすごくいい。</p> <p>コロナで今人数が限られ、なかなか歴史とか文化に興味のある人みんなが参加できないので、より多くの方が情報にアクセスできるようにできればいいと思う。須崎には保存施設がないので、廃校などに文化財を置いているだけで、このままでは朽ちていくだけなのでこの文化財保護事業は、これは市町村に対してだけ？</p> |
| 中内課長 | <p>この事業は所有者に向けて行っている。が、補助の指定が国と県なので市町村までは行き届いていない。文化財と同じように人づくりも課題になっている。文化財を次の時代につなげていくために、役場だけでは難しいので地域みなさんにもご協力いただいて一緒にやっという、そうして初めて次の時代につながっていく、文化財保護活動推進計画を進めている。それぞれの地域の方や役場の方と協力して次の時代につなげていくために取り組んでいるところである。</p> |
| 宮田委員長 | <p>文化財というか、今廃校が増えているがその学校が持っている資料などはどうなるのか。破棄されているのではないかと心配になっている。これはそれぞれの市町村に任せているのか。</p> |
| 依光課長 | <p>民間の団体で活動されている方もいるが、基本的には市町村に任せているが、市町村も人手不足という話を聞いているのでなかなか苦戦している。</p> |

～令和3年度改定案について～

| | |
|-------|--|
| 谷委員 | 新規で追加する、鯉マグロ漁業の多角的評価の検討、これが面白そうだと思う。一本釣りは高知の文化であるし。高知市の小学4年生は鯉の学習を何時間か必ずするので、しっかり学んでから卒業する。鯉については高知の、県の魚なのでこれはとてもいいと思うが、これからということなので何か分かれば知りたい。(3-1, 2P) |
| 依光課長 | これから担当の漁業振興課の方に今後のスケジュール等を確認することになっているが、まだ庁内での会議も始まっていないので現時点で詳細は分からない。 |
| 宮田委員長 | 高知鯉県民会議、県にも応援してもらってやっている。この中で、鯉の一本釣りを日本遺産に登録しようとしたが、できなかった。こういう民間の活動を県と連携してやっていこうと思っているのか。今も漁業振興課もメンバーで入っているが、今までのような協力ではなく、別々にやるのでもなく、しっかり連携をとってやっていけばもっといいものができるのではないかと思う。 |
| 西田委員 | 県民文化施設を活用した文化イベントとあるが、県立に限らず市町村なんかもっと積極的に受け止めて、金銭的に援助するとか、イベントを大きくするような、そういった部分で役割を検討していった方がいいのではないかと思う。(1P中段) |
| 依光課長 | <p>県立施設の利用促進の横に魅力的な展覧会や公演の開催とあり、そちらで施設が行う進捗管理を行うことになっている。今回の施設の適正な管理運営というのは、管理運営について進捗管理を行うのは少し違うかな、ということで項目削除した。県立施設の活動については今後もこのビジョンの中で取り組んでいく。</p> <p>各地域における文化芸術の発表の場の拡充や発表の機会の充実については県立施設のところを削除しているが、どちらかというとなら地域で文化芸術の発表の場を拡充したり県立施設も使って発表の機会の充実させていくということで、こちらにまとめた。(3-1, (1)-2)</p> |
| 天野委員 | 高知の文化の国内外への発信というところで、県立文化施設からの情報発信と文化広報誌の発行による高知の文化の発信とあるが、HPだけでは弱いと思う。国内外、特に国外の人に対しても発信していくことが必要なので、もっとSNSを含めた発信の仕方、もう一步踏み込んだ発信方法を考えてほしい。(3-1, 3P) |

| | |
|-------|--|
| 宮田委員長 | 実際、ホームページはあまり見てくれない。手間をかけてつくるわりには見てくれないので、もっと手軽で発信力のあるSNSなどを使った方が効果があるかも。 |
| 西田委員 | 多様な文化人との交流機会の創出とあるが、この中で、カーニバル00in高知が開かれて、これをどうするか、一回きりなのか毎年開くのか何年かに一回なのか、せっかくのイベントなのでもう少し拡充して定期的に開くような方法にもっていけないか。(3P) |
| 依光課長 | カーニバル00を今後も開く予定は今のところないが、前回のカーニバル00に来てくださった文化人の方々を、県が行う人材育成プログラムの方で高知県内での人材育成に協力いただいている。 |
| 宮田委員長 | カーニバル00は昔あったエンジン01みたいなもの。これに出られた文化人たちが高知をすごく気に入ってくれて、同じようなことをまたやりたい、と企画したのがカーニバル00。もし全国でまだエンジン01が続いているのであれば、もう一回高知でやりたい。 |
| | |
| | 以上 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |